

木造建築の担い手育成へ
学生が木製ベンチ設計製作
広島県の講座修了

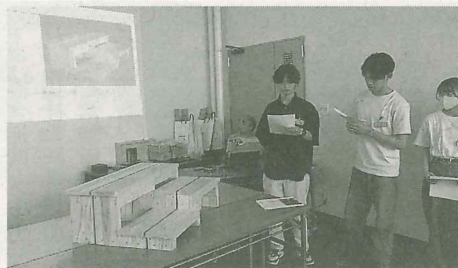
建築を専攻する大学
生を対象に将来の木造
の設計・施工の人材育
成を目的にした広島県
主催の「学生のための
木造建築担い手講座
(木造建築スクール)」
の最終回が8月25日、

広島県庁であった。広
島大学、近畿大学、広
島工業大学の1、2年
生が木製ベンチを製作
しプレゼンテーション
した。

講座初日の4日は木
造の創建ホーム東広島
本部(広島県東広島市)
を見学し、在来軸組工
法や木造の材料などを
学んだ。2、3回目は
子ども3人(体重1人
20キ、計60キ)の使用
を想定し、厚さ24、幅
45、70、150、長さ
1200ミリの県産杉の

板材を原材料にベンチ
を設計・製作した。

発表を前に3月に県
庁敷地内にオープンし
商業施設では全国初の
木造延焼防止建築物を
設計した永瀬智基建業
設計事務所(川崎市)
の永瀬智基氏が講演。
開口部の制限や燃えし
る設計など防火地域で
の設計の工夫を話し、
今後の木造の可能性を
学生に示した。



最優秀賞を受賞した「ひらめきベンチ」

点などを説明。創
建ホームの山本慎
社長やスガノ(広
島市)の三原聖史
社長等11人が安全
性や使いやすさ、
デザイン性などを
審査し、受賞作品
5点を決めた。
最優秀賞を受賞
したグループは
「ひらめきベン
チ」と題し、設計

と使いやすさを追求し
た。設計面では、座板
から脚に釘を垂直に打
ち込むのみだと座った
際に荷重で接合部分が
屈曲するため、脚の間
に梁の補強材を取り付
けて水平剛性と座面の
曲げ剛性を確保。安全
性と施工性、運搬、組
み立て、解体まで考慮
して設計した点も評価
された。

修了証を受け取った
学生を前に、県の委託
を受け事業を行った安
田哲也NPO法人サウ
ンドウツズ代表理事は
「我々の世代は学生の
時に木材や木造を勉強
できなかった。我々の
世代にできないことが
できると胸を張って業
界に入り、木造建築の
スペシャリストとして
活躍してほしい」と期
待した。
ベンチは県内の幼稚
園や保育園に寄贈する
予定。